

になって太陽が西の山にかたむくのをみて、次のような句をつくりました。

終つひに行く道は**いづくぞ花の雲**

わたしがゆこうとしている最後の道は、きっと桜の花にかこまれた美しい道にちがいない。

この句碑は、たよ女の弟子たちによつて、十念寺に建てられ今も残っています。

こうしてたよ女は、慶応元年（一八六五年）八月四日にこの世を去りました。

桜の花にかこまれた美しい道を歩んで、この世を去るたよ女の姿すがたが、目に見えるようです。数え年九十才でした。お墓は芭蕉の句碑のある十念寺にあります。

このように、たよ女は俳句づくりに一生をささげ、多くの弟子を育てましたが須賀川には、今から約三百年前の人で、芭蕉ばしやうとたいへん仲のよかつた「相楽等躬さがらとうきゆう」や僧可伸そうかしん、藤井晋流ふじいしんりゆうなど有名な俳人がたくさんおりました。